



2024年12月19日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 i s p a c e
代 表 者 名 代 表 取 締 役 C E O 袴 田 武 史
(コード番号：9348 東証グロース市場)
問 合 せ 先 取 締 役 C F O 野 崎 順 平
(TEL.03-6277-6451)

ミッション2進捗に関して頂いたご質問への回答公開

当社は、2024年12月18日に、最新情報を交えたミッション2の全貌を纏めた動画（以下、「Keynote 動画」）（※）を公開いたしました。当 Keynote 動画の配信後にステークホルダーの皆様からお寄せいただいたご質問について、下記の通りご回答させていただきます。

※Keynote 動画の視聴はこちら: <https://youtu.be/UJA0IAEMqaw>

記

- Q. 打ち上げ時期は「最速 2025 年 1 月中旬（6 日間の打ち上げウィンドウ）」とのことですが、具体的にはいつでしょうか？
- A. 打ち上げ日の公表にあたっては、打ち上げ業者である SpaceX 社及び共に打ち上げを予定している Firefly 社からの了承を得るまで、当社から公表することは出来ません。当社としても早いタイミングで皆様により詳細な候補日の日程をお伝えしたい所ではございますが、上記以上の詳細情報は現時点においてはお伝えできかねる旨、ご理解賜れますと幸いです。より詳細な打ち上げ時期が公表できるタイミングになりましたら、[当社サイトのニュースページ](#)、または[公式 SNS](#)でお知らせいたします。
- Q. 打ち上げ時期は「最速」2025 年 1 月中旬、ということは、現状、2 月や 3 月以降になる可能性があるということでしょうか？
- A. 現時点で、SpaceX 社及び当社は共に、2025 年 1 月中旬の打ち上げを見据えて最終準備を行っておりますが、今後、SpaceX 社や当社の事情、天候等により、打ち上げ日が 2 月以降へ遅れる可能性はございます（但し、現時点でその様な事象は発生しておりません）。この様に頭に「最速」と付ける表現は、SpaceX 社側との調整によるものであり、ロケットの打ち上げ日が変わりやすい業界においては一般的な表現と言えます。

Q. 米国の民間企業である Firefly 社も同じ Falcon 9 ロケットで打ち上げ予定であり、加えて ispace よりも早く月面へ到達予定とのことですが、ispace にとって懸念はありますか？

A. 月面着陸成功までのスピードは重要であるものの、我々は単発の「レース」をしているのではございません。民間企業による月面へのペイロード輸送回数が増えること自体は月面ビジネスの発展及びシスルナ経済圏（注1）の構築に繋がる非常にポジティブなことだと考えておりますし、1つのロケットに月面探査を目指す民間企業2社が共に打ち上げられることは史上初であり、価値ある瞬間と考えております。Firefly 社をはじめ、当社の所謂「競合」となる企業はアメリカに数社おりますが、一方でそれらの競合各社は共に月面市場・産業を拡大させていく「パートナー」でもあり、その活躍にお互いに期待し歓迎するものでもございます。当社が目指すシスルナ経済圏の構築は、当社1社だけで実現できるものではなく、複数のプレイヤーで共に構築していくことが必要と考えております。

（注1）シスルナ経済圏とは、地球と月の間の空間に実現を目指す経済基盤であり、持続可能な社会の実現を支える新たな市場や技術、インフラを含む広範な概念です。

Q. 競合と同じロケットでの打ち上げは、今後のミッションでも発生し得るのでしょうか？

A. 月面産業の発展に伴い、今後も自然とあり得るものだと考えております。当社にとっての競合だけでなく、打ち上げ業者も含め、月面産業に関連するプレイヤーが増え、複数存在することが市場の発展そのものであり、この流れは総じてポジティブなことだと捉えております。

Q. ミッション2マイルストーンの「Success」と「Venture」の違いは？

A. ミッション2マイルストーンの「Success」は、打ち上げから月面着陸までの間に、当社の月着陸船「RESILIENCE ランダー」のハードウェア及びソフトウェアが正常に機能するか、時系列に評価・判断を行うポイントを示します。ミッション1時同様に、ミッション2でも合計10個のマイルストーンを設定しておりますが、このように敢えて細分化している理由は、当社が月着陸ミッションを通じて得たデータやノウハウなどの成果を正確にステークホルダーの皆様へお伝えするためです。一般的に月着陸ミッションは、月面着陸の成否のみに焦点が当たりがちですが、そこに至るミッションの過程においても、実は多くの技術実証を行い、データやノウハウなどを収集しています。これらの成果を正確に把握し、後続ミッションへ即座にフィードバックしていくことが、技術と事業モデルの信頼度及び成熟度を高める上で極めて重要です。

もう1つの「Venture」は、当社欧州法人が開発した月面探査車「TENACIOUS ローバー」を用いて月面着陸後に実施予定である月面探査の内容を示したものです。シスルナ経済圏構築の第一歩につながる月面の自律走行、搭載カメラでの撮影、ムーンハウス（注2）のペイロード展開、及びレゴリス（月の砂）採取などを行う予定ですが、これらは「Success」の様な時系列では実施されない可能性もございます。

（注2）ミッション2で輸送する顧客ペイロードのひとつ。



(TENACIOUS ローバーの前方に固定されたムーンハウス)

以上